

舌がんについて

川口市立医療センター

歯科口腔外科部長

はら 彰

あきら 彰



舌がんは、希少がんと呼ばれる口腔がん（全がんの1%程度）の中ではもっとも多く、国内では年間約4,200人が罹患します。

喫煙や飲酒などが関与しますが、それらの経験の無いかたにも発生します。

舌縁（舌の側面）に多く、時に舌の裏などにもみられます。舌背（舌の上面）や先端にはとてもまれです。

初期の痛みは少なく、進行するにつれ、しこり感、しびれ感、動かし難さ、出血、口臭、痛みなどが出現してきます。

口内炎や硬いできもののような見た目をしています（潰瘍型、びらん型、白斑型、肉芽型、膨隆型、乳頭型などに分類されます）。

舌縁に硬いしこり（鏡で見て、指で触って、動かして、左右を比較して）を感じたり、口内炎が2週間以上治らない時などは、早めにお近くの歯科や耳鼻科を受診してください。

そこでの診断が難しい場合、病変は小さいので、なるべく手を加える処置（レーザー照射、細胞診など）を受けずに、速やかに総合病院の歯科口腔外科、耳鼻咽喉科へ紹介状を書いてもらってください。

治療は、希少がんのため、経験豊富な専門施設をおすすめします。

性感染症

～12月1日は世界エイズデーです～

●どんな病気？

主に性行為によって人から人へ感染する病気の総称です。性感染症には、HIV／エイズ、梅毒、淋菌感染症、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、B型肝炎などがあります。口腔や肛門を使った性行為でも感染します。性行為の経験があれば、誰でも感染する可能性があります。近年では若年層（10～20歳代）の梅毒発生数の増加や、咽頭感染が新たに問題となってきました。

●どんな症状があるの？

性感染症は無症状、または軽い症状であることも多く、感染に気付かないまま、パートナーに感染させる危険があります。症状がない間も性感染症は進行するため、治療せずに放置すると、重篤な合併症や、不妊の原因になったり、母子感染して胎児や新生児に悪影響を及ぼす可能性があります。

●予防のための5つのステップ

- ①正しい知識を身につけよう
 - ②セーフアセックス(※)（性行為を行わない場合も含む）を守ろう
 - ③自分のからだを大切にしよう
 - ④自分の問題として認識しよう
 - ⑤気になることがあればすぐ検査を受けよう
- ※コンドームを使用するなど感染したりさせたりするリスクを下げるように配慮した性行為

●検査を受けよう

保健所では月1回（第2木曜日）と年2回（休日）、無料で性感染症検査を実施しています。感染の可能性のあった日から3カ月経過してから検査をおすすめします。

→24ページ

☎疾病対策課 ☎048-423-6726

イベントスケジュール

1日(日)

第38回川口マラソン大会

場青木町公園総合運動場(スタート・ゴール会場)

12月

6日(金)

かわぐち光のファンタジー

2019点灯式

場川口駅西口(川口西公園)

17:45～

ぎゅぽらん

オンステージ

→9ページ

14日(土)～2/24日(振)

アイススケート場オープン

場グリーンセンター

→21ページ

27日(金)～31日(火)

スーパースターフェスタ2019

場川口オートレース場

→27ページ

7日(火)～19日(日)

アートな年賀状展2020

場アートギャラリー・アトリア

→19ページ

1月

13日(祝)

川口市はたちの集い

場リリア、川口西公園



19日(日)

新春伝承あそびまつり

場ゴリラ公園



悔しさをバネにして

2019年BTFグランプリ太田ラロ優勝

太島 由菜さん

華麗な演技で観客を魅了するバトン・ワタナベ。両端にゴム製のおもりを付けた金属の棒を回し、空中に投げ、音楽に合わせて華やかに舞う芸術性の高いスポーツである。バトンを始めたのは3歳。友人のお母さんに誘われてやって来た体育館で、偶然練習を見たことがきっかけだった。音楽をバトンと身体で美しく表現する姿に「自分もやってみたい」と思い、青木バトンクラブに入部。指導を受け始めた。毎日目標を立てて練習に励み、その中で気づいたことをノートに書く。真面目な性格で、先生から与えられた難しい課題も、何度も何度も練習して克服した。そのかいあって全国の大会でも好成績を残すようになっていった。しかし、昨年、優勝を目指し

ていた全日本選手権の2日前にバトンが目に当たった。目を打ってしまっただけで、負ったことで不安な気持ちが強くなり、大会の雰囲気にも飲み込まれて、思うような結果が残せなかった。ショックで一時はバトンをやめようと思った。しかし、それからしばらくは距離を置いていた。しかし、時間が経つにつれて虚しさや物足りなさを感じ、再びバトンに練習に参加。すると、「またバトンをやりたい、自分にはバトンが必要なんだ」という強い意欲が改めてわいてきた。再びバトンを始め練習を積み重ねた結果、今年の全日本選手権大会では好成績を残し、日本代表に選出された。そして、8月初旬にフランスで行われたバトンの世界大会であるIBTFグランプリ大会でジュニア「ソロ」の部で優



勝、WBTFインターナショナルカップではバトン3本を使うジュニア「スリーバトン」の部で準優勝に輝いた。「昨年の悔しさが自分のバネとなり、ここまで頑張りました。初めての世界大会で緊張したけれど、先生や先輩に励ましてもらい、落ち着いて大会に臨めた。普段練習していたことが全て発揮できました」と語る。

次の目標は全日本選手権大会での優勝。「優勝したらメダルを先生にかけてあげたい。そのためにも日々大会を想定した練習をしてさらに自分を高めていきたい。」と語るそのまなざしにはすでに未来への道筋が描かれていた。(優)